

4.COVID-19 流行期に COVID -19 専用病床以外の看護師長が 直面している管理業務遂行上の困難感について

飯田 洋未，長野 文子，伊藤 美喜，永富 宏明

加古川中央市民病院 看護部

【要旨】

本研究は、新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）の受け入れを実施している急性期病院において、COVID-19 流行期に看護師長が直面している管理業務に関する困難感について明らかにすることを目的とした。

半構成的面接法に基づき研究者が作成したインタビューガイドを用いて質的記述的研究を行った。

その結果、COVID-19 流行期に看護師長が直面している管理業務に関する困難感は、【病院規定の家族への協力依頼】を除き、平時の管理業務と同様であった。しかし、サブカテゴリーからは、コロナ禍特有の管理業務に困難を抱えている様子が窺えた。

以上より、COVID-19 のような新興感染症流行期において看護師長が困難を感じる管理業務は平時と比べて大きく変わらないが、管理業務に対する対応頻度の増加や流行期特有の複雑性があることが示唆された。

【はじめに】

看護師長の管理業務は、スタッフの看護ケアから患者のケアの質を評価すること、適正にベッドコントロールをすること、重要な情報収集と発信など 32 項目に分類されると言われている¹⁾。

2019 年、COVID-19 が全世界に広がり、日本国内の医療現場は逼迫し、看護師長はウイルスへの恐怖と不安を感じながら日々管理業務を行ってきた。

COVID-19 患者専用病床を担当する看護師長は、何度も病床運用状況が変更になる中で安全な環境を整備することやメンタルサポート、一般診療患者を受け入れている病棟との温度差への対応等の管理業務があることが先行研究で報告されている²⁾。

一方、COVID-19 専用病床以外の看護師長の管理業務を遂行する上での困難感については明らかになっていない。しかし、実際には、COVID-19 を疑う患者と一般診療の患者の双方を受け入れなければならない、業

務内容に変化が生じる日々の管理業務で、違和感を感じていると推察された。そこで、今回、COVID-19 専用病床以外の看護師長の管理業務における困難感を明らかにしたいと考えた。

【目的】

本研究は、COVID-19 流行期における COVID -19 患者専用病床以外の看護師長の管理業務を遂行する上での困難感を明らかにし、看護師長が得た経験をもとに、新たな新興感染症の流行における病棟運営の支援や精神的支援の一助になると考えた。さらに、看護師長が困難を感じることを事前に予測でき、事前準備ができることで安全な患者受け入れに繋がると考えた。

【方法】

半構成的面接法に基づき質的記述的研究を行う。研究実施期間は、2022 年 7 月 20 日～2023 年 6 月で、研究者で作成したインタビューガイドを用いた。研究対象者は、2020 年 4 月以降、COVID-19 疑い患者及び一般患者も受け入れている病棟で、かつ、COVID-19 患者専用病床以外の急性期一般入院料 1 を算定している病棟の看護師長 6 名とした。

管理業務に対する困難感の定義は、看護師長が管理業務を行う中で難しいと感じること、悩んだこと、苦しかったことを指す。

調査方法は、研究対象者の選択基準を全て満たしており、同意を得られた研究対象者に対して対面でインタビューを行った。また、分析方法は、面接に基づく逐語録から質的帰納的に分析しコード名に基づいてカテゴリー化した。

倫理的配慮は所属施設の研究倫理審査委員会の承認を得た。（承認番号：N2021-14）

【結果】

研究に同意を得られた対象者は、6 名であった。主要カテゴリーは、【診療制限がない中でのベッドコント

ロール】【細やかな職員の体調管理】【勤務者の確保】
 【師長のストレスマネジメント】【感染管理】【頻繁な
 ルール変更に対するスタッフへの周知と遵守】【副師長
 の管理能力】【病院規定の家族への協力依頼】【患者・
 家族のトラブル対応】の9つカテゴリとなった。サブ
 カテゴリは、【勤務者の確保】では＜度重なる勤務
 調整や勤務者の確保＞＜不公平が無い勤務調整＞、【師
 長のストレスマネジメント】では、＜未熟な理解の中
 でのスタッフへの説明＞＜昼夜を問わない対応＞＜看
 護師長の経験の共有＞など、28に分類された(表1)。

表1: COVID-19 流行期における看護師長の管理業務
 に関する困難感

カテゴリ	サブカテゴリ
診療制限が無い中で のベッドコントロール	診療制限が無い中でベッドコントロール
	急性期病院としての役割を果たすこと
	感染対策のための個室の確保
	当該科以外の診療科との退院調整 当該科以外の入院を受けるための物品の準備
細やかな職員の体調管理	働き続ける職員の体調管理
	働き続ける職員のメンタルケア
	陽性者になった職員の体調管理
	陽性者になった職員のメンタルケア
勤務者の確保	勤務者の確保
	度重なる勤務調整
	不公平が無い勤務調整
師長のストレスマネジメント	看護師長の経験の共有
	上司への報告
	昼夜を問わない対応
	未熟な理解の中での病棟運営
	未熟な理解の中でのスタッフへの説明
感染管理	自部署で陽性患者や濃厚接触者が発生した時の対応
	正解が分からない中での感染拡大を防ぐための判断
頻繁なルール変更に対する スタッフへの周知徹底と遵守	スタッフの感染対策の遵守
	ルールに関する大量の情報の周知
	スタッフからのコロナに関する患者情報が不確か 降りてくる情報元が1本化されていない
副師長の管理能力	副師長への期待と現実とのギャップ
	副師長の未熟な危機管理能力
病院規定の家族への協力依頼	病院規定の家族への協力依頼
患者・家族のトラブル対応	個室に関するトラブル対応
	面会に関するトラブル対応

【考察】

COVID-19 流行期に看護師長が直面している管理業務に関する困難感は、富永¹⁷⁾の研究と比較すると、【病院規定の家族への協力依頼】を除き、平時の管理業務と同様であった。しかし、サブカテゴリからは、コロナ禍特有の管理業務に困難を抱えている様子が窺えた。

【病院規定の家族への協力依頼】については、これまでは、病院規定を家族に対して協力依頼することにはなかったが、体調不良時にPCR検査を行ってもらうなど、職員と同等の規定を家族に依頼していた。通常とは異なる対応であることはもちろん、規定を家族にまで求めて良いのか悩み困難を抱えていたと考える。

【細やかな職員の体調管理】については、働き続け

る職員に対する体調管理や、陽性になった職員の体調管理・メンタルケアも必要で、かつ、繊細に行う必要があった。さらに、毎日電話で体調確認したり重症化をしていないか等の通常よりも細やかな体調管理が必要であり、困難感を抱えていたと考える。

【勤務者の確保】については、通常であれば職員の体調不良のみ就業制限がかかっていた。しかし、コロナ禍では、職員の家族が体調不良であったりCOVID-19の感染による濃厚接触者となることで、職員の体調に問題が無くても休職せざるを得ない状況が生まれた。さらに、これまでよりも就業制限の期間が長かったことから勤務調整の頻度が増えたため、勤務者の確保に困難を感じたと考える。また、COVID-19患者に対応する病棟が立ち上がり、その病棟に職員が異動したことで、部署の職員が減ったことも勤務調整に困難を感じた要因であったと考える。

【頻繁なルール変更に対するスタッフへの周知徹底と遵守】については、通常でもルールに関する周知徹底が困難であるにも関わらず、COVID-19感染防止対策に関する大量で複雑な情報が多方面から入ってきた。管理者はその情報を周知徹底するために奔走するが頻回に変更があった。そのため、管理者は、スタッフがルールを理解し感染対策を遵守行動できるよう周知徹底することに困難を抱えていたと言える。

管理者は、以上のようなコロナ禍特有の困難感を抱えながら管理業務を遂行していたが、その経験や思いを共有する余裕もなく、昼夜を問わない対応が必要となり、【師長のストレスマネジメント】に困難を抱えていたと考える。

【結論】

以上より、新興感染症流行期において看護師長が困難を感じる管理業務は平時と比べて大きく変わらないが、管理業務に対する対応頻度の増加や流行期特有の複雑性があることが示唆された。

本研究結果は、新興感染症流行期において看護師長が困難を感じる管理業務が明らかとなったことで、看護師長がそれらを念頭に置き予測的行動につながる一助になる。

【引用・参考文献】

- 1) 富永真弓: 病院の看護師長の主観的評価による看護師長業務の負担と蓄積 疲労度及び長時間労働に関する研究, 日本医療・病院管理学会誌. 7-17, 2017
- 2) 間瀬有奈, 森川里美: 新型コロナ禍における管理者の工夫, 看護実践の科学. 46(3):36-39, 2021

- 3) 松下博宣:看護経営学-看護部門改造計画のすすめ,
日本看護協会出版会. 206-211, 2006
- 4) 日本看護協会編,看護業務基準集 2007 年改訂版,
日本看護協会出版会. 1-23, 2007
- 5) 永田桂子:看護師長が役割遂行上の困難からその
困難を乗り越えた体験の概念化,第 6 回日本看護学
会論文集,看護管理. 80-83, 2016
- 6) 柳橋礼子:看護部長による病棟婦長に必要な能力
の明確化,日本看護管理学会誌. 52-53, 1999
- 7) 小山和子:新型コロナ禍における当院の対応と入
院体制整備,看護実践の科学. 46(3):14-15, 2021
- 8) 古林千恵:新型コロナウイルス感染症患者の受け
入れに伴う看護管理者としての実践と今後の課題,
看護管理. 31(1):61, 2021
- 9) 千葉美恵子:市立札幌病院看護部の対応,看護展望.
4(12):21, 2020
- 10) 鳥羽真弓:感染症指定医療機関としての自覚を
もち、患者対応へ臨む,看護展望. 45(12):27-28,
2020
- 11) 半場江利子:院内クラスター発生から収束まで
病院・看護師の経験をどう活かすか,Nursing
BUSINESS. 14(11):17-18, 2020
- 12) 本村美津子:新型コロナウイルス感染症 中小
病院での受け入れの実際,看護展望. 45(12):33-34,
2020
- 13) 原田久美子ら:新型コロナウイルス危機 感染
症指定医療機関としての対応,Nursing BUSINESS.
14(11):6-9, 2020
- 14) 島塚裕美子:COVID-19 パンデミック発生 その
時病院は?看護師の環境は?Nursing BUSINESS.
14(11):10-13, 2020
- 15) 長谷川好信:COVID-19 拡大時の看護管理者の役
割、看護実践の科学. 46(3):16-23, 2021
- 16) 水巻中生:日本における新型コロナウイルス感
染拡大の経緯,看護展望. 45(12):10-17, 2020
- 17) 古床富子・小島恭子:看護管理シリーズ-看護管
理その 2-看護管理の実際,日本看護協会出版会.
55-68, 1993

【Keyword】

COVID-19, 看護師長, 管理業務